

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY絵本の制作に取り組んで

鳥取大学附属特別支援学校
児島陽子、入川加代子、浅野美保、下田和郎

研究の目的

中学部2年生（男子4名・女子2名）の9月の生活単元学習で、「読書の秋！ 絵本を作って小学部に読み聞かせに行こう！」というテーマで学習を行いました。絵本制作にあたっては、紙媒体の絵本を制作して読み聞かせをするだけでなく、マルチメディアDAISY絵本も制作して学校図書館に保存し、全校のみんなにも視聴してもらおうということになりました。制作過程に生徒が関わりながらマルチメディアDAISY絵本を作ることで、子どもたちのどのような姿が見られ、どのような成果や課題があるのか、検証することを目的としました。

< 研究準備 >

マルチメディアDAISY図書制作ソフトと再生アプリの購入

- ・「プレクストークプロデューサー」
シナノケンシ株式会社（制作ソフト）
- ・「イーリーダー」
シナノケンシ株式会社（再生アプリ）

取り組みの実際

< 学習の流れと生徒の様子 >

（1）オリエンテーション

司書教諭と学校司書が授業に入り、まず、絵本には大型絵本や布絵本、マルチメディアDAISY絵本など、いろいろな形態の絵本があることを、実物を見せながら紹介しました。

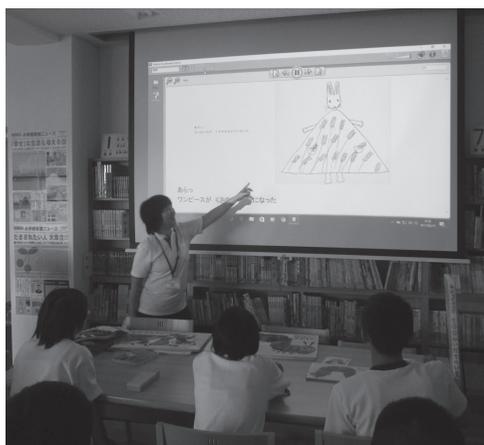


いろいろな形態の絵本紹介

その後、マルチメディアDAISY図書『わたしのワンピース』を視聴して、どんな絵本を作れば小学部の友だちに楽しんでもらえるかをみんなで考え、以下のようなポイントをおさえました。

- ・大きさは、大きな本がわかりやすい。
- ・小学部の人知らない新しい本がいい。
- ・登場人物（キャラクター）がいる。
- ・絵は、はっきり、くっきり。
- ・文字は、少なく。
- ・くりかえしがある。

そして、画用紙大の紙媒体の絵本と、学校図書館からの提案で、タブレット端末やパソコンでも楽しめるようにマルチメディアDAISY絵本も制作することにしました。



『わたしのワンピース』の視聴

(2) 登場人物とストーリーの決定

みんなで、まず「なしちゃま」「ピーチ」「ここちゃん」という3人のキャラクター

を決め、デザインを考えました。そして、3人が「砂の世界」や「氷の世界」「温泉」といろいろな場所（少し“鳥取”を意識しています）へ冒険に出かけるという簡単なストーリーを考え、文も相談して作りました。

(3) 場面の担当を決め、絵を描く

1人が2～3場面を担当し、絵を描きました。画用紙の地の部分をしっかりと絵具で塗り、砂絵で砂の世界を表現したり、キラキラテープを貼って氷の世界を表現したりして、工夫しながら絵を完成させました。また、担当した絵にお話の文を間違えないように慎重に書きました。



砂やテープを使って絵の制作



砂やテープを使って絵の制作

(4) マルチメディアDAISY絵本を制作する

まず、司書教諭がマルチメディアDAISY絵本制作の手順を説明し、自分が絵を描いた場面を担当し、みんなで協力して仕上げることを話しました。

①絵の写真を撮る

デジタルカメラを使って、自分が担当した絵の写真を撮りました。ピントを合わせる、絵を画面の枠に合わせるなど、写し方を説明すると、一人一人が意識をしながら丁寧に写すことができました。

②パソコンで文字を入力する

パソコンで文字入力するのは初めての生徒もいましたが、慣れている生徒もいて、ローマ字入力の生徒が3人、ひらがな入力の生徒が3人だったことから、2台のパソコンを使ってお互いに教え合いながら入力しました。3人で“な”の字はここだよ”などと文字を見つけて助け合う姿が見られるとともに、慣れてくると少しずつ文字入力が速くなりました。



協力しながら文字入力

③ 音声を録音する

小学部の友だちやマルチメディアDAISY絵本を視聴してくれる人を楽しんでもらうには、どのように読めばよいかをみんなで考えました。

「大きな声で読む」「ゆっくりはっきり読む」「間違えないで読む」などの意見が出て、特にかぎかっこ「」の部分は気持ちを込めて(抑揚をつけて)読むというポイントも確認し、司書教諭が手本を示しました。

そして、個人練習をしてから録音に臨みました。

マイクを向けられると、一人ひとりが緊張しながらも真剣にゆっくりと自分のセリフを言う姿が見られました。途中で間違えて「初めからしていいですか」とやり直したり、録音した後で、自分の声を聞き、「少し、つまったのもう1回録音したいです」と言ったりする生徒もいて、うまく読めているかどうか自分で振り返り、再度挑戦する姿も見られ、音声を録音する作業は、読み聞かせの絶好の練習の機会になりました。

また、雑音が入るとそれも録音されてしまうので、みんなが集中して静かに友だちの読みを聞き、応援する姿も見られ、一体感を感じることができました。



緊張しながら音声を録音



完成した絵本を視聴

④ 制作ソフトを使ってマルチメディアDAISY絵本を制作する

生徒たちが作業したものを素材として、制作ソフト「プレクストークプロデューサー」を使って、司書教諭が最後に仕上げをして、完成させました。



完成した絵本を視聴

(5) 完成したマルチメディアDAISY絵本を視聴する

図書室で、完成したマルチメディアDAISY絵本『なしちゃま、ピーチ、ココちゃんのワクワクぼうけんものがたり』をみんなで視聴しました。

自分たちが描いた絵がスクリーンに大きく映し出され、自分の声が聞こえてきて、少し恥ずかしそうでしたが、みんなで協力してやり遂げた満足感や達成感が伝わってきました。

そして、個々のタブレット端末にもデータを入れ、教室でも楽しく視聴しました。

(6) 小学部で読み聞かせをする

後日、小学部で紙媒体の絵本の読み聞かせをしました。初めにページサートでキャラクターを紹介し、みんなが緊張しながらも練習の成果を発揮し、気持ちを込めて読み聞かせをしました。小学部の子どもたちは、お兄さんやお姉さんが読み聞かせに来てくれたことに大喜びで、絵をじっと見ながら次はどうかと期待感をもちながら、一生懸命に聞く姿が見られました。

成果と課題

マルチメディアDAISY図書を制作して、「文字を入力するのが難しかった。」「声を録音するのがどきどきした。」「みんなで協力して作れてうれしい!」などの子どもたちの感想が聞かれました。

子どもたちが完成をイメージしながら、みんなに楽しんでもらえるマルチメディアDAISY絵本を作りたいという願いをもって制作過程に関わることで、一文字ずつ促音や拗音などに気をつけながら文字入力したり、間違えないようにゆっくり読もうとしたりする姿が多く見られました。

そして、それが小学部での読み聞かせの活動にもつながっていったと感じ

ています。また、ICTを活用してマルチメディアDAISY絵本を制作するという活動は、中学生という時期にふさわしい素敵な活動であり、子どもたちは興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができました。

今後、完成したマルチメディアDAISY絵本を全校集会で紹介し、図書館に保存して誰でも視聴できるようにする予定です。

課題としては、作成ソフトや再生アプリが高価であることや互換性がないことが挙げられます。活字の読み書きに困難を抱える子どもたちが、いつでもどこでも手軽に作成でき、利用できるような環境が整うとよいと感じています。

